

報告資料 (アンケート・ワークショップ・景観学習会)

(1) 景観に関する市民アンケート調査 (概要)

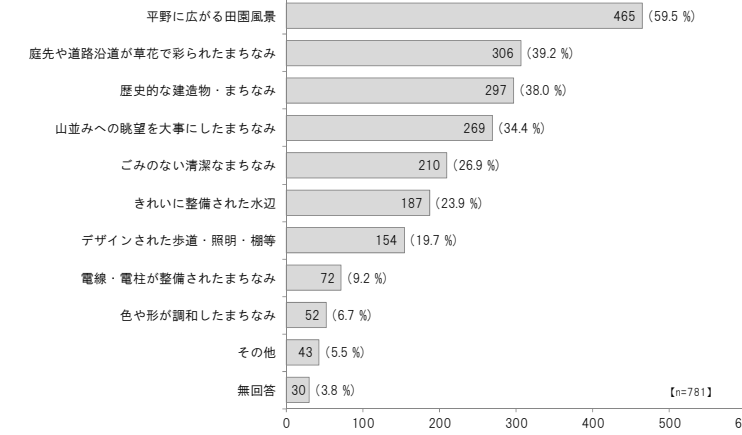
① 実施概要

対象者	玉名市内に在住の市民 2,000 人
実施日	平成 25 年 9 月 20 日～平成 25 年 10 月 11 日
回収数・回収率	配布 2,000 通 回収数 781 通 回収率 39.1%

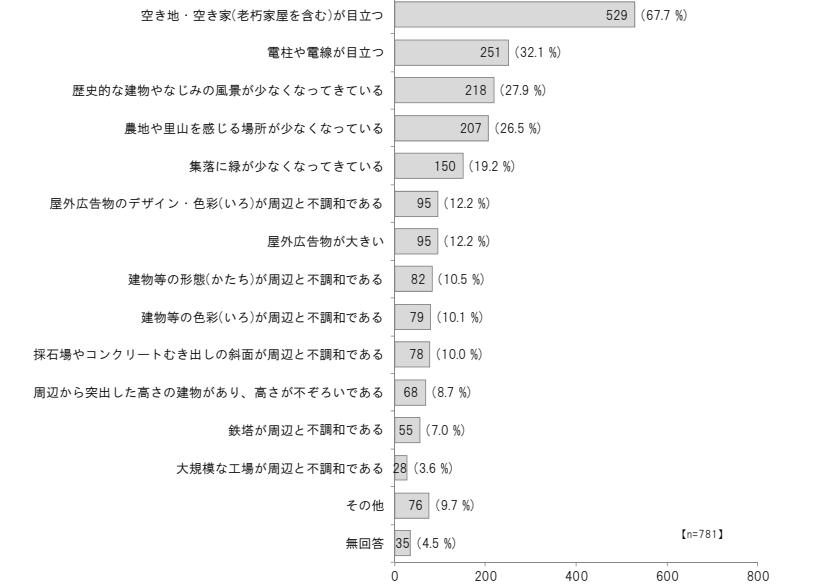
② 結果概要

- まちなみや自然の景観について、77.4%は気になっており、関心を持っています。
- 玉名市の景観について、「自慢できる景観である (一部含む)」意向が 66.5%である一方で、「自慢できる景観はあまりない」や「全く自慢できる景観ではない」は 25.9%あります。また、「景観について考えたことがない」は 6.3%でした。
- 玉名市のまちなみや自然の風景は、以前 (10 年～15 年前) と比べると、「少し良くなった」、「変わらない」は 49.6%であり、(少し) 悪くなったという意向は 15.5%となっています。
- 良い景観は「平野に広がる田園風景」、「庭先や道路沿道が草花で彩られたまちなみ」、「歴史的な建造物・まちなみ」であり、自然景観や歴史的なまちなみを良いと感じています。一方で、悪い景観と感じているのは「空き地・空き家(老朽家屋を含む)が目立つ」、「電柱や電線が目立つ」、「歴史的な建物やなじみの風景が少なくなっている」となっています。
- 良好な景観づくりに向けて、守り育てるべき重要な場所は、「九州新幹線新玉名駅周辺」、「玉名温泉街のまちなみ」、「裏川水際緑地(花しょうぶ・石橋・石垣含む)」となっています。
- 玉名らしい景観は、「情緒豊かな温泉街」、「広大な田園風景」、「市内を雄大に貫く菊池川」の温泉街と自然・田園景観であると感じています。
- 景観づくりのルールとしては、「全市的に緩やかなルールを設け、重要地区についてきめ細やかなルールを設ける」意向が強く、「住宅や店舗等の敷地の緑化」、「建物等デザイン、色彩 (いろ)、素材」に対するルールが必要であると感じています。
- 建物等の色彩 (いろ) について、日常生活で不快感を覚えた回答者は 4 割あり、特に「道路上や店舗前の立看板、のぼり等」に不快感を覚えています。

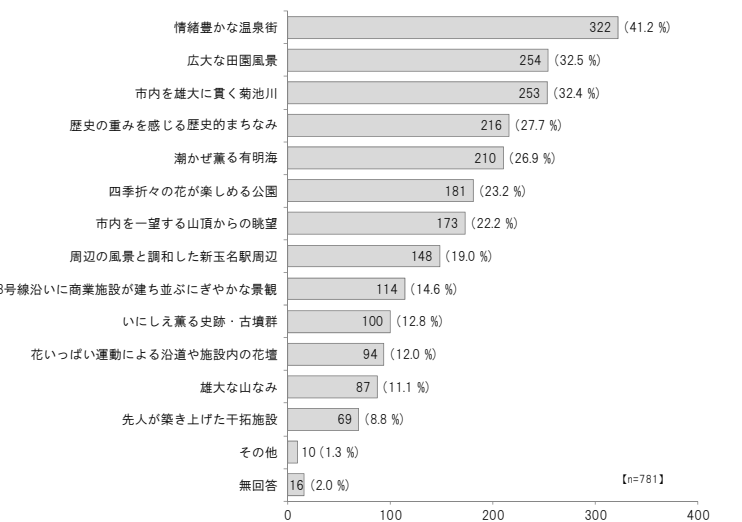
良い景観



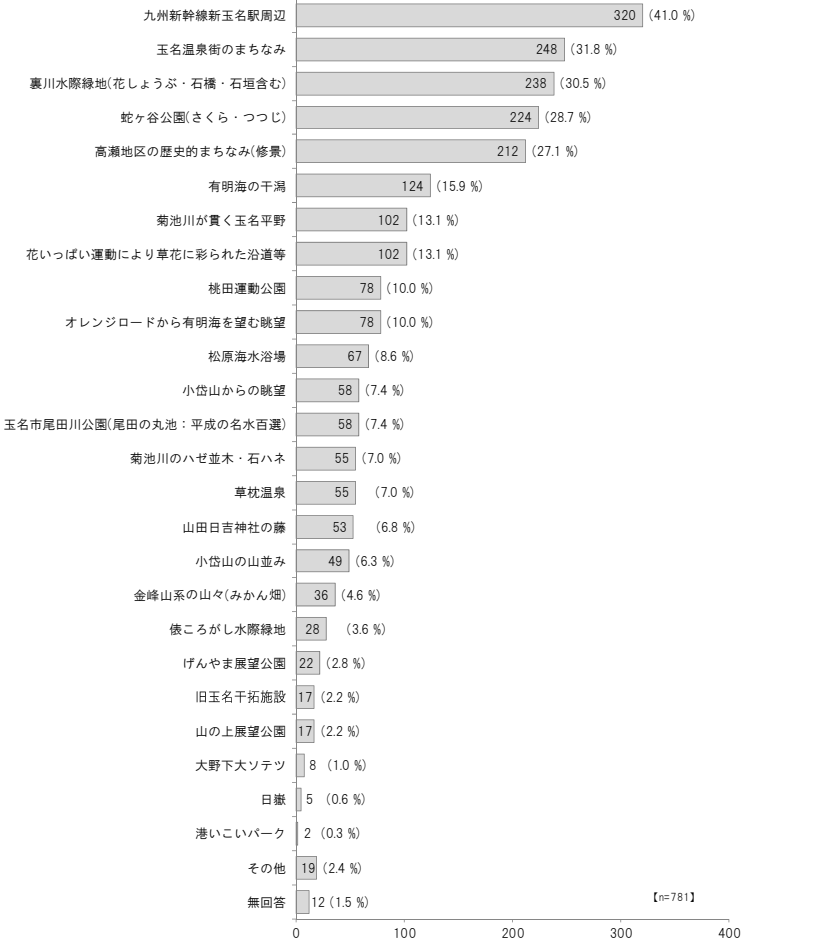
悪い景観



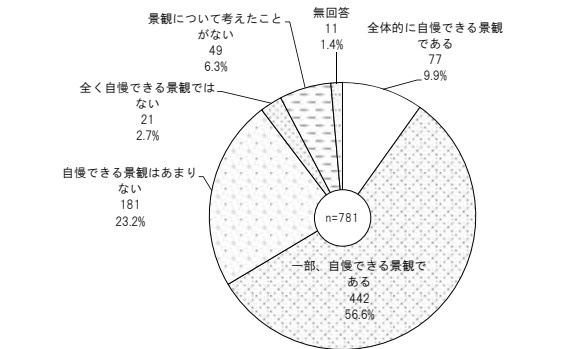
本市らしいと思う景観



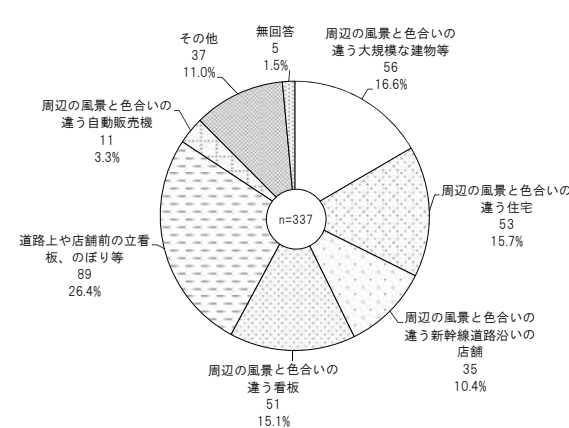
守り育てるべき重要な場所



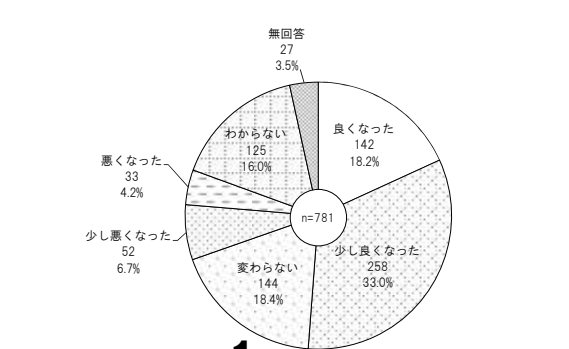
本市の景観の印象



色彩に不快感を覚えたもの



新玉名駅周辺地区の景観の印象



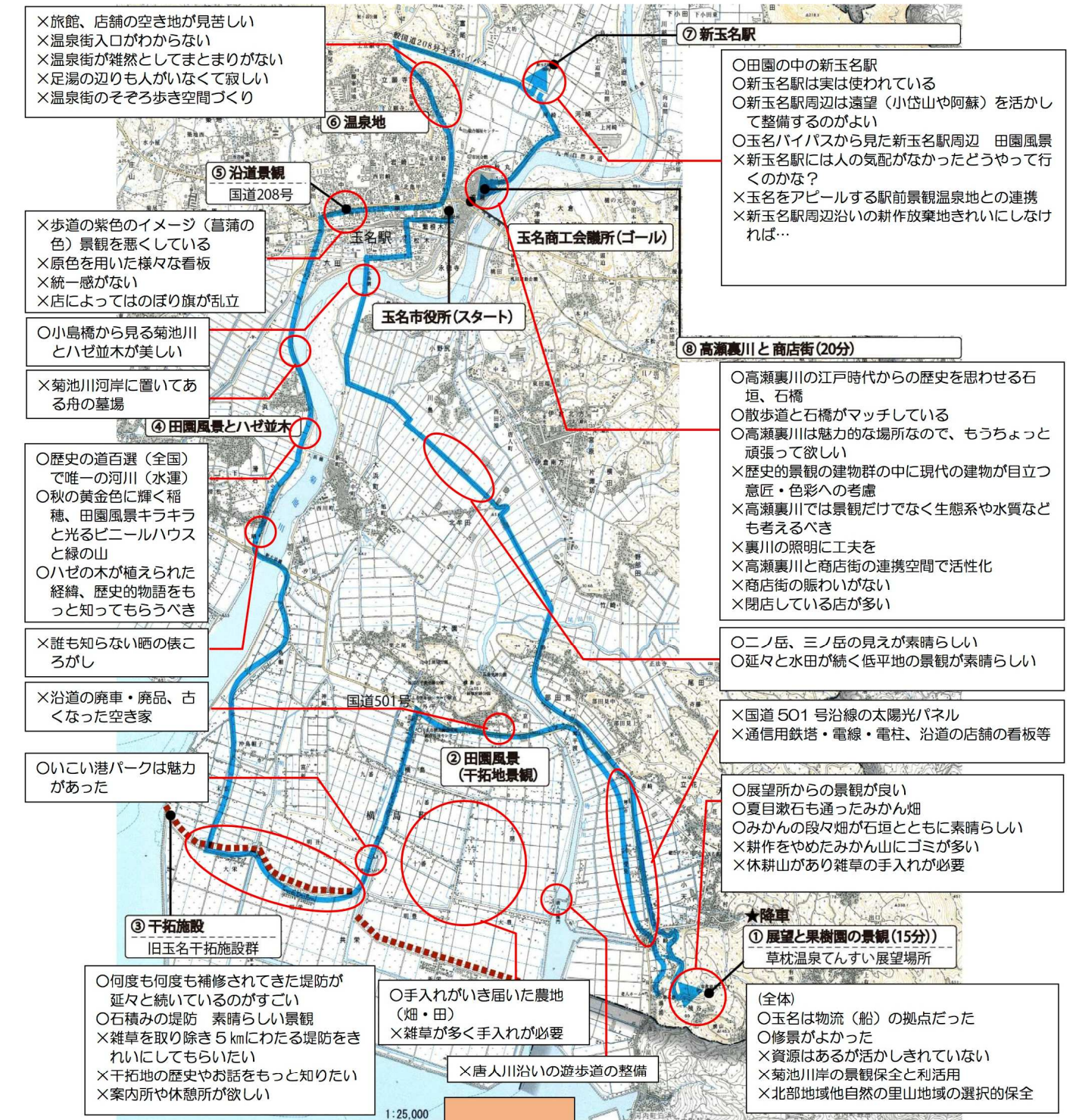
(2) 景観ワークショップ及び景観学習会意見

① 景観ワークショップの結果まとめ

景観類型	主な良い景観	主に気になる景観
自然景観	<ul style="list-style-type: none"> 山・川・海全ての自然景観が揃っており、すばらしい景色を眺めることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ゴミ（不法投棄）、雑草、竹等の管理・手入れが行き届いていない。 土砂等の採取後が景観を損ねている。
田園等景観	<ul style="list-style-type: none"> 広大な農地が美しい。 みかん畑の段々畑が素晴らしい。 動植物、里山の風景が残っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 荒れ地や耕作放棄地が景観を損ねている。 みかん畑の石積みが消えていっている。 太陽光発電が景観を邪魔している。
道路沿道景観	<ul style="list-style-type: none"> 地域の努力により、幹線道路沿道の木や花がきれい。 新しいバイパスは手入れされている。 	<ul style="list-style-type: none"> 派手な看板が多い。 草木や雑草の管理が行き届いていない。 景観に連続性や特徴がない。
市街地景観	<ul style="list-style-type: none"> 高瀬裏川周辺の景観がよい。 新玉名駅周辺の整備に期待を持っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 派手な看板が多い。 空き店舗が多く活気がない。 温泉街の情緒がない。 新幹線駅周辺が殺風景であり、PR 不足である。 街並みに統一感や特徴がない。
歴史・文化景観	<ul style="list-style-type: none"> 歴史的な史跡等が多く残っている。 干拓堤防と干拓地の風景がよい。 伝統芸能や祭が残っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 歴史的資源があるが生かされていない。 伊倉町の下地中分の認識不足。



② 景観学習会の結果まとめ



守りたい景観	気になる景観
<ul style="list-style-type: none"> ●歴史的な資源 ●高瀬裏川の江戸時代からの歴史を思わせる石垣、石橋 ●何度も何度も補修されてきた石積みの堤防 等 ●自然景観、田園景観 ●みかんの段々畑、石積み ●秋の黄金色に輝く稲穂、田園風景 ●二ノ岳、三ノ岳の眺望 等 ●市街地景観 ●田園の中の新玉名駅 等 	<ul style="list-style-type: none"> ●維持管理が必要 ●沿道の廃車・廃品、古くなった空き家 ●雑草を取り除き5kmにわたる堤防をきれいにしてほしい ●雑草が多く手入れが必要 等 ●統一感、一体感が必要 ●原色を用いた様々な看板、統一感がない ●歴史的景観の中に現代の建物が目立つ ●店によってはのぼり旗が乱立 等 ●認知度を高めることが必要 ●誰も知らない晒の俵ころがし ●ハゼの木が植えられた経緯、歴史の物語をもっと知ってもらいたい 等
<p>時間の都合上、市の南部を中心にバスツアーを行いました。</p> <p>守りたい景観として歴史、自然、市街地の景観などさまざまなものがあげられる一方で、維持管理面や魅力を高めるための工夫が必要という課題が見えてきました。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●魅力を高める工夫、演出が必要 ●裏川の照明に工夫を ●温泉街入口がわからない ●温泉街のそぞろ歩き空間づくり 等 ●生活と一体的に考えることが必要 ●休耕地があり雑草の手入れが必要 ●耕作放棄地きれいにならなければ… ●新玉名駅には人の気配がなかった ●閉店している店が多い 等 ●資源の連携が必要 ●玉名をアピールする駅前と景観温泉地との連携 ●高瀬裏川と商店街の連携空間で活性化 等